

メタルに代わる審美的な補綴装置を目指して カタ ナジルコニア^{ML}を用いた臨床例

著者	赤沼 正康, 石川 昌洋, 越智 守生
雑誌名	北海道医療大学歯学雑誌
巻	32
号	2
ページ	54-54
発行年	2013-12
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00006621/

[最近のトピックス]

メタルに代わる審美的な補綴装置を目指して -カタナジルコニアMLを用いた臨床例-

赤沼 正康, 石川 昌洋, 越智 守生

北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野

ジルコニアは高強度、高靱性のセラミックス材料であり、審美的な観点からも金属に代わり広く臨床応用されてきている。多くの製品では、ジルコニアでフレームワークを製作し、そこにポーセレンを築盛し審美的な補綴装置を製作している。しかし、ジルコニアへ築盛したポーセレンはチッピングや剥離を起こす場合があると報告されている (Fischer J et al., 2009)。そこで本講座では、チッピングや剥離を防ぐ目的で開発されたカタナジルコニアMLを用いたフルジルコニアブリッジ症例を経験したので報告する。

カタナジルコニアMLの特徴は、優れた耐水熱劣化を有し、高透光性で歯冠色をしたジルコニアである。さらに、ボディ (デンチン) からエナメルを表現する4層構造になっていることである。色調はA Light (A1.5~2), A Dark (A2.5~3.5), B Light (B1.5~2.5) の3シェードのディスクから選択する。本症例ではA Darkを用いた (図1)。また、ポーセレン築盛の必要がないため、支台歯の形成量も0.5~1.2mm程度とメタルによる補綴装置の条件に近く、生活歯への適応も広まると考えられる (図2, 3)。

本症例では、審美的に修復されたことで患者の満足が得られた。しかし、ジルコニアによる補綴装置は硬質であるため、金属修復物と比較して対合歯の摩耗に注意しなければならない。そのため専用のポイントや研磨剤を用いて滑沢な研磨面に仕上げ装着した。今後、長期的な経過観察を行っていく必要がある。

文献

Fischer J, et al. Impact of thermal misfit on shear strength of veneering ceramic / zirconia composites. Dent Mater. Apr ; 25(4) : 419-23, 2009



図1 カタナジルコニアML



図2 初診時



図3 カタナジルコニアML ⑦6⑤ Br装着後